



「空の翼」、わが母校

筑波大学数理物質科学研究科 中井 直正 (1980年物理学科卒業)

中井直正氏は「銀河中心巨大ブラックホールの発見」に関する研究により2008年度日本学士院賞を受賞されました。心より御祝い申し上げます。

私は中学校を卒業後、船舶通信士養成の高専に進学しました。しかし、途中で天文学を志し、卒業後に大学に編入しようと思いました。ところが当時は天文や宇宙を学べる大学は限られており、とりあえず大学は物理学科に行って大学院で天文をやろうと考えました。

今と違って30年前は高専から大学に編入可能だったのは工学部であり、理学部は国立大学・私立大学ともにほとんどありませんでした。いろいろ悪戦苦闘の末、私を拾ってくれた数少ない大学が関西学院大学でした。もしあのとき関学が門を開いてくれていなければ私の人生はどうなっていたことかと思えます。関学には本当に感謝しています。

大学には3年に編入しましたが、単位認定は1年分相当だけだったので卒業までに3年かかりました。入学後、高専でもやっていた陸上競技部に入りました。長距離でしたが、高専のときの古傷が再発して怪我ばかりの落ちこぼれ部員でした。練習できないことに悶々とし、それでも少し良くなって駅伝に向けて練習をし、弱くても歯を食いしばって最後まで続けたことが今の私にとっては貴重な財産となっています。陸上部にいたおかげで「空の翼」や「新月旗の下に」は今でも口ずさんでいます。つくばの地で陸上部の活躍に一喜一憂をし、アメリカンフットボールの立命戦や甲子園ボールのウェブ観戦で「・・・栄光～つねに～我と～あ～り、力、力、その名、関西学院、関西学院」と。そして30年たった今でもこのような歌をうたえることに幸福を感じています。

4年生のときの卒業研究では今村研究室を志望しました。ゼミは大変厳しいものでした。そのため自分の理論研究に対する能力に自信を失い、大学院受験のときは実験系に変えました。今村先生と廊下ですれ違ったときに聞かれて国立大学の大学院に合格したことを報告すると、あの厳しい先生が「おめでとう」と言って握手をしてくださったのを覚えています。

大学院は名古屋大学の宇宙理学専攻に行き、電波天文学の研究室に入りました。しかし理論への思いを断ち切りがたく、入学直後に理論研究室への変更を願い出しましたが認められませんでした。そしてそれから現在まで観測的研究をずっと続けています。しかしやはり理論をやっていたはたぶん芽は出なかったでしょう。「塞翁が馬」のごとく、観測をやることになったのでその後の幸運に巡り合えたのだと思います。

指導教官が長野県の野辺山にある宇宙電波観測所に移っ



たので私も博士課程のときからそこに移り、以後20年間そこで学び、働くことになりました。

そのときに偶然見つけた不思議な現象が銀河の中心にある巨大質量ブラックホールの検出に結びつきました。従来の研究に比べ百万倍の確からしさとなり、1969年に初めてそのようなブラックホールを予言した人からもこの日が来るのを26年間待っていた、と喜ばれました。しかしこれは、目の前を通り過ぎようとした幸運をたまたまつかんだだけというものでした。というよりも運が勝手に転がりこんできたのですが、それは野辺山宇宙電波観測所の大先輩の方々が大変な苦勞の末になされた準備の賜物でした。世界でそこにしかない装置が用意されていたのです。「果報は寝て待て」の意味するところはきっと、「寝る前にしっかりと準備をせよ」ということでしょう。

関学大に入学したのは他の大学を落ちた末のことでした。しかし、そこでの3年間は私の貴重な青春の日々となり、卒業するときには本当にこの大学にきてよかったと思えました。そしてその後の人生の糧となり、研究の上でも大いに役に立ちました。深く御礼申し上げます。

中井 直正(なかい なおまさ)氏 プロフィール

筑波大学大学院教授、理学博士。「水メーザー源のVLBI観測による活動的銀河中心核と巨大質量ブラックホールの研究」にて2008年度日本学士院賞受賞。

1980年 関西学院大学理学部物理学科卒業、1982年 名古屋大学大学院理学研究科宇宙物理学専攻修士課程修了、1985年 東京大学大学院理学系研究科天文学専攻第1種博士課程修了(理学博士)。1986年 東京大学東京天文台野辺山宇宙電波観測所研究員、1988年 東京大学理学部天文学教育研究センター助手、1989年 国立天文台電波天文学研究系助手、同助教授を経て、1997年 同教授、2002年 国立天文台野辺山宇宙電波観測所長(併任)(～2004年)、2004年 筑波大学大学院数理物質科学研究科物理学専攻教授、現在に至る。1993年-94年 マサチューセッツ大学5大学電波天文台客員助教授(併任)、1998年-2004年 東京大学大学院理学系研究科天文学専攻教授(併任)。1996年 第42回仁科記念賞受賞-「銀河中心巨大ブラックホールの発見」。

日本学士院賞：

日本学士院が特にすぐれた研究に対して与える賞で、明治44年より始まり今年で98回となる。授賞式は天皇皇后両陛下の行幸啓を仰いで挙行される。受賞者には、湯川秀樹氏等ノーベル賞受賞者を始め、日本の学術研究の発展に多大な影響を与えたそうそうたる研究者が名前を連ねている。